

國稅滯納處分法  
改正地租條例  
便覽

鈴木壽三郎

032963-000-8

CZ-366-066

國稅滯納處分法改正地租條例便覽

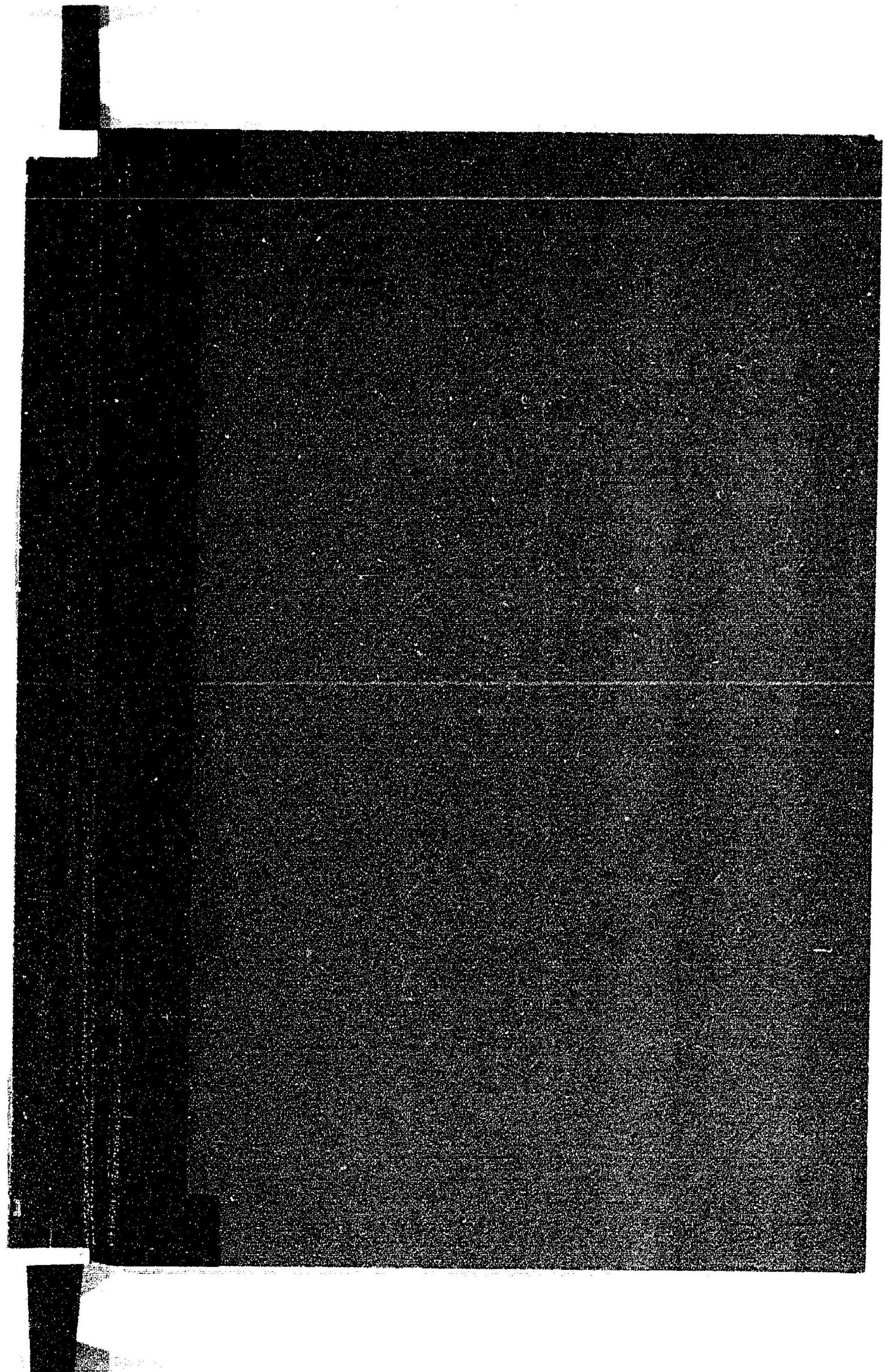
鈴木 壽三郎 / 編

M23

BBJ-0267



30



セ× 182

160

1/32

岐阜縣鈴木壽三郎編纂

國稅滯納處分法  
改正地租條例  
便覽

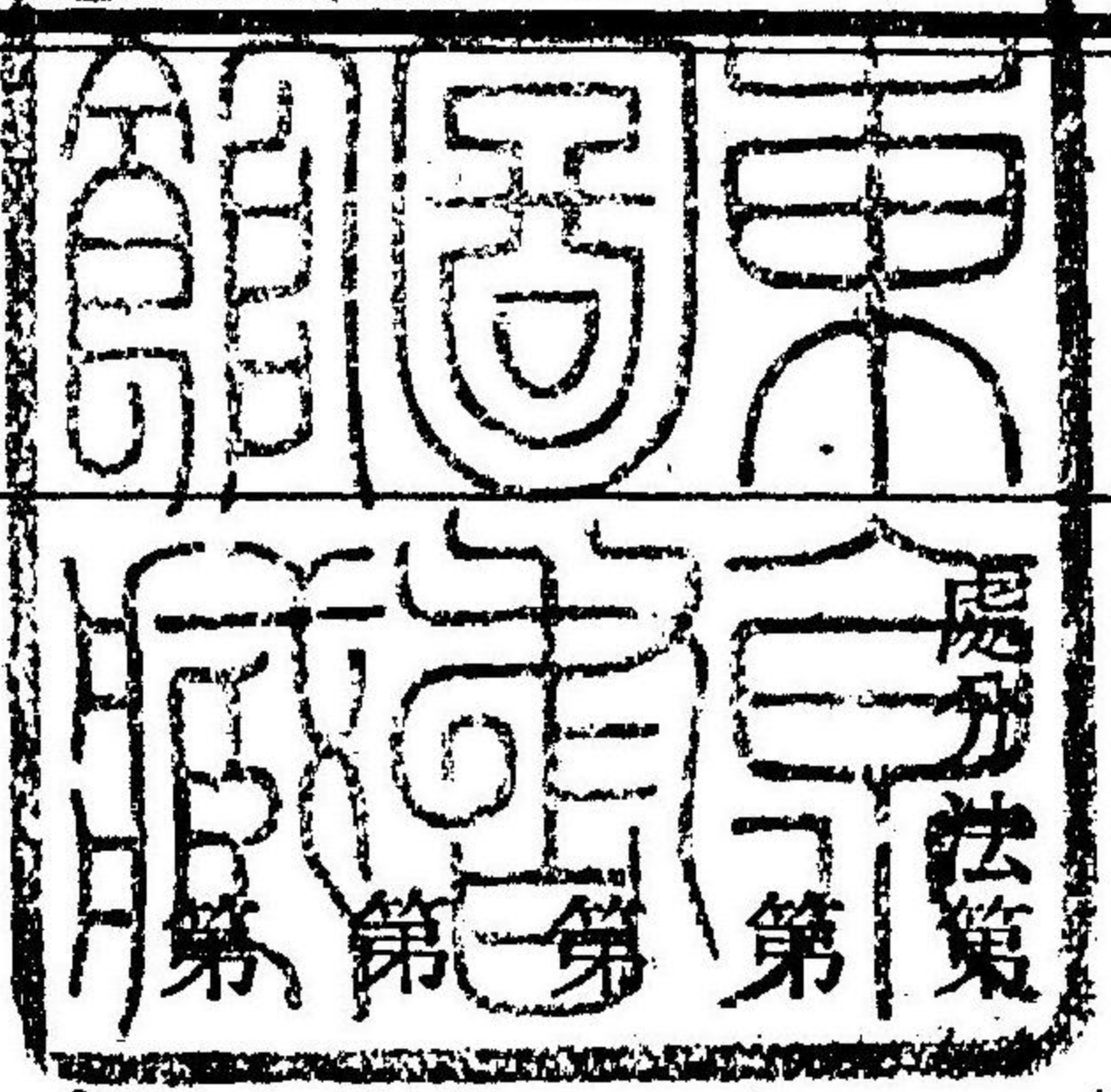
愛知印刷會社

特47

350

№3264/23

C区  
366  
066



國稅滯納處分法目次

第七	第六	第五	第四	第三	第二	第一	章
令狀ヲ受ケタル滯納者納付方	滯納處分費々目	先取權	眞稟申	處分濟ノ上損失ニ歸シタル	滯納者納稅義務	財產差押着手期日	督促令狀發付方
六	五	全	全	四	三	二	二
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁



目次

一

第八	滯納處分囑託手續	十一丁
處分法第二章 差押		
第一	差押命令樣式	十二丁
第二	差押物件順序	十三丁
第三	差押物件取戻請求期限	十五丁
第四	非差押物件	十六丁
第五	收入官吏証憑取調	十八丁
第六	証憑調ノ際立會人撰定方	十九丁
第七	差押調書調製方	二十丁
第八	差押物件預ケ方	二十一丁
第九	債主權差押ノ際通知方	二十二丁

第十	不動産船舶ニ係ル差押ノ登記請求方	二十二丁
第十一	質入書入ノ財産差押タル時 債主ニ通知方	全丁
處分法第三章 賣却		
第一	賣却公告手續	二十四丁
第二	賣却手續	二十六丁
第三	賣却期日	二十八丁
第四	公賣物件買受望人ナキ時處分方	二十九丁
第五	賣却調書調製方	全丁

第六	賣却濟及差押ノ通貨ノ殘余	三十三丁
第七	處分方	三十三丁
	債主ニ交付スヘキ金額交付	
	期限	三十五丁
處分法第四章	送達	
第一	送達書調製及送達方	三十六丁
第二	市町村長ニ於テ書類ヲ受取人	
	ニ渡スヲ能ハサルル處分法	三十九丁
處分法第五章	罰則	
附則		
地租條例目次		

第一條	地租稅率	四十五丁
第三條	有租地區別	全丁
第四條	免租地	四十六丁
第五條	尺度ノ用法	四十九丁
第六條	地價ヲ査定スルルハ地盤	
	ヲ丈量ス	五十丁
第七條	地價修正制限	五十三丁
第九條	地價査定方	全丁
第十條	地目變換届出方	五十四丁
第四條(取扱)	地目變換地臺帳調製方	五十五丁
第十二條	地租徵收者ヲ定ム	五十六丁

- 第十三條 免租地ノ月割ヲ定ム 全 丁
- 第十六條 開墾地 五十七丁
- 同 條 鋤下年期々限 五十八丁
- 第十一條(細則) 開墾届ニ着手ノ年月記載方 五十九丁
- 第二十條 荒地免租年期査定方 六十一丁
- 第二十一條 低價年期査定方 六十二丁
- 第二十五條 土地欺隱シ逋税スルモノ  
追徴方 六十四丁
- 第二十九條 條例違犯ノモノ自首スル  
キハ其罰金科料ヲ免ス 六十五丁

朕國稅滯納處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治廿二年十二月廿日

內閣總理大臣 公爵三條實美  
大藏大臣 伯爵松方正義

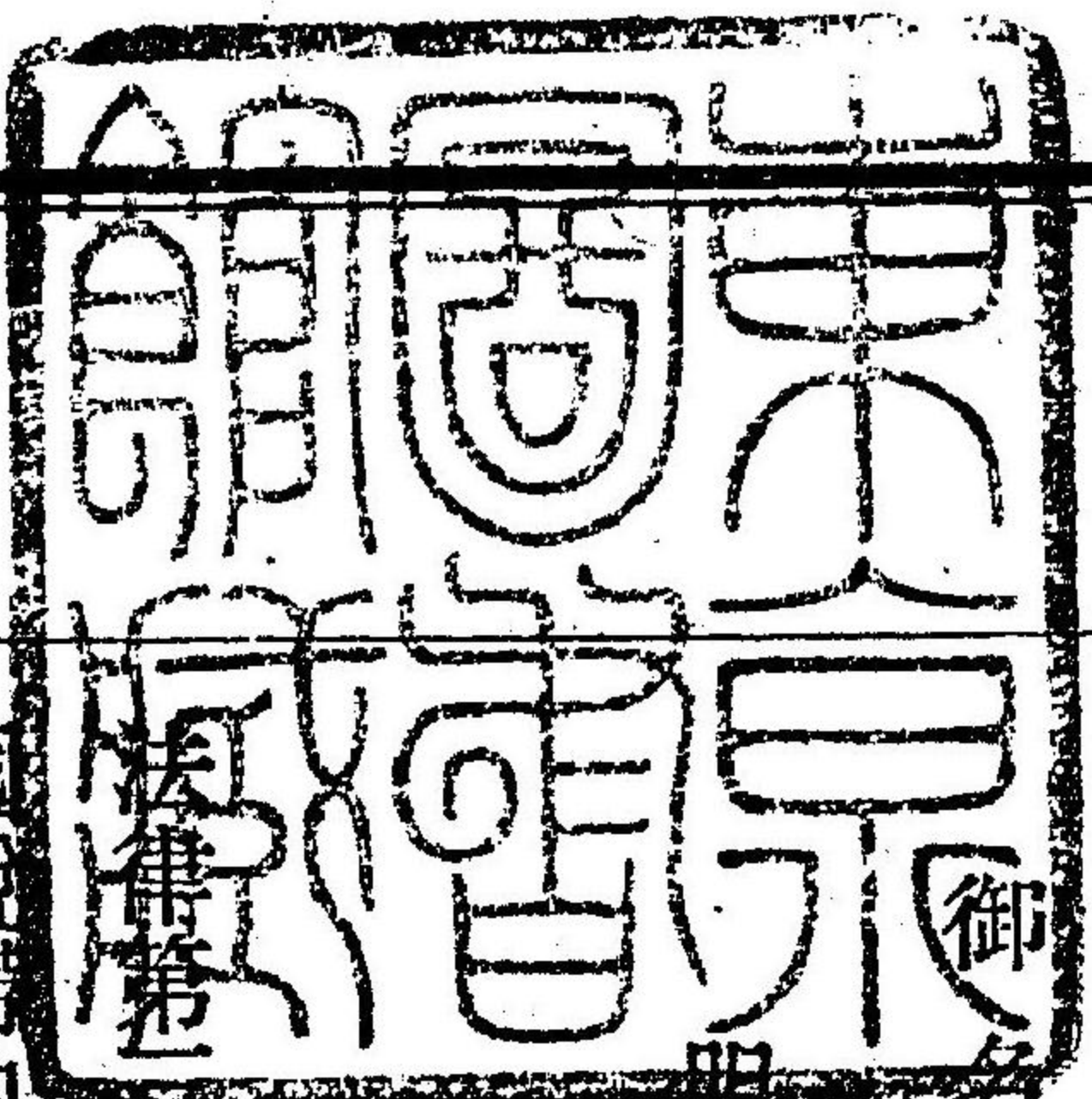
法律第二十號

國稅滯納處分法

(細則) 大藏省令第一號

國稅滯納處分法施行細則左ノ通定ム

明治廿三年一月八日 大藏大臣 伯爵松方正義



國稅滯納處分法施行細則

第一章 總則

第一條 國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除ク外總テ此法律ニ依テ處分ス

第二條 國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサルモノアルハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スベシ  
督促令狀ヲ發スルハ手數料トシテ一通ニ付金三錢ヲ徵收スヘシ

(細則) 第一條 處分法第二條ノ督促令狀同第十二條ノ差押命令書ハ第一號様式第二號様式ニヨリ之ヲ調製スヘシ

第一號用式

用紙寸法適宜

督	第何號	經常	租稅	(滯納者住所氏名)
	明治何年度	何	(項)	何(月)
促	一金何程			明治何年
	一金三錢			第何期分
令	右金額此令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ當出張所へ上納スヘシ若其期限ヲ過シルハ直ニ財產差押ノ處分ヲナス者ナリ			
狀	何府何收稅部何出張所收入官吏			
	明治何年何月何日	氏名	印	

收入官吏  
割印

督 促 令 狀

第二條 滯納者督促令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ税金ヲ完納セサルトキハ其所有財產ヲ差押へ賣却シテ之レヲ



徴收スヘシ

第四條 滞納者ノ納稅義務ハ滞納處分濟ヲ以テ終ルモノトス

第五條 滞納者財産ノ價格處分費ヲ償フテ剩余ヲ得ル見込ナキハ差押ヲナスコトヲ得ス此場合ニ於テモ亦前條ニ同シ

(細則) 第十條 滞納處分濟ノ上國庫ノ損失ニ歸シタルハ處分濟ノ日ヨリ十日以内ニ收入官吏ヨリ事由ヲ具シ其缺損額ヲ地方長官ニ稟申スヘシ

第六條 滞納處分費滞納稅金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滞納シタル稅金ノ納期限ヨリ一ヶ年前

ニ質入書入トナシタル財産ニ付テハ此限ニアラス

第七條 酒類醬油造石稅ニ付滞納處分ヲナスキ其課額已ニ定マリタル稅金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ滞納稅金ト併セテ之ヲ徴收スヘシ

第八條 滞納處分費ハ左ニ掲クル費目ニシテ督促令狀手数料ヲ除クノ外實際支辨スルモノヲ云フ

第一 督促令狀手数料

第二 差押調書及賣却調書調製費

第三 滞納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費

第四 許價人看守人又ハ競賣人ノ給料

第五 差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸賣

第六 公告費

第七 訴訟ニ要スル諸費

(参照) 廿二年大藏省訓令第二號

國稅滯納處分法第八條中第二項乃至第七項ニ係ル諸

費ハ內國稅徵收費當該各科目ヨリ支出スヘシ

第九條 滯納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費税金ヲ

完納スルキハ其財産ノ差押ヘテ解クヘシ

第三者ヨリ滯納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルキ亦

同シ

(細則) 第十五條 督促令狀ヲ受ケタル后滯納者又ハ第三

者ニ於テ滯納處分費税金ヲ完納スルキハ滯納處分費ハ

第四號様式税金ハ第五號様式ノ納付書ニ督促令狀ヲ添  
付シ之レヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第四號様式用紙適宜縦四寸五分 横三寸三分ノモノニ枚縦四寸五分 横二寸ノモノ一枚接續

第何號	經常雜收入	住所氏名
明治何年度	雜入	滯納處分費

一金何程

右納付候也

明治何年何月何日

住所氏名印

金庫  
割印

領 書			
	收		
第何號	第何號	收入 吏檢印	第何號
明治何年度	明治何年度	一金何程	明治何年度
雜入	經常 雜收入	右領收候也	經常 雜收入
滯納處分費	住所氏名	明治何年何月何日	住所氏名
一金何程	金庫 割印		收入 吏檢印
			金庫 取扱主 任印

八

納 付 書			
第何號	第何號	收入 吏檢印	第何號
明治何年度	明治何年度	一金何程	明治何年度
經常 租稅	何々(頂)	右納付候也	經常 租稅
住所氏名	何々(目)	督促令狀第何號、分	住所氏名
明 治 何 年 何 月 何 日	第何 期何 分年	一金何程	明 治 何 年 何 月 何 日
住所氏名印			住所氏名印
			何地金庫へ納付 收入 吏檢印
			第五號前同上

九



付スヘシ若滞納者又ハ債主ニ交付スヘキ金額アリテ其受託收入官吏ノ管轄地内ニ住スルキハ受託收入官吏ニ於テ其金額交付ノ手續ヲナスベシ

第二章 差押

第十二條 財産差押ヲナストキハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

(細則) 第一條 處分法第二條ノ督促令狀第十二條ノ差押命令書ハ第一號様式第二號様式ニヨリ之ヲ調製スヘシ

第二號様式 用紙寸法適宜

府縣 割印	差押命令書	差押執行シ
	滞納者住所 氏名	ヲル月日時

第十三條 財産差押ヲナスキハ處分費税金ニ充ツル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ從ヒ其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲナスヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜ニヨリ順序ニ拘ハラズ之ヲ差押フルヲ得又物件

右何税何年何月何日限納期ノ分金何程滞納ニ付國稅滞納處分法ニヨリ本人所有ノ財産ヲ差押フヘキモノナリ  明治何年何月何日 府縣 應ノ印 何府 應知事氏名	賣却執行シ ヲル月日時 執行ノ手續 右之通取扱候也 明治何年何月何日 府縣 應ノ印 何府 應收稅部何出張所收入官吏 氏名 印
--	---

ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價值ヲ減スヘント  
認ムルモノハ其全部ヲ差押フルヲ得

第一 地金銀、公債証書、株券手形、其他ノ証券

第二 農業其他營業上ノ生産物、製造物及賣品

第三 第一第二ニ掲ケサル動産及一月以内ニ收穫シ得ヘ

キ土地ノ生産物

第四 債主權

第五 不動産

第六 質入質入トナシタル財産

但質屋營業者ヘ質入シタル動産ヲ除ク

第十四條 主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ

生産物ニモ其効力ヲ及ホスモノトス

第十五條 滞納處分着手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滞納者ノ

財産一部ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テハ其殘部ヲ差押フ

ヘシ其實却代價處分費税金ニ對シ不足ナルヘシト認ムル

トキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ

第十六條 第十三條第一第二第三ノ物件ニシテ滞納者所有

ノ家屋倉庫其他滞納者所有ノ場所ニ現在スルモノハ滞納

者ノ所有ニアラサル旨ヲ申告スト雖モ其証據分明ナラサ

ルキハ之ヲ差押フルヲ得

第十七條 前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セント

スルモノハ賣却執行ノ五日前迄ニ其所有主タルノ證憑ヲ

具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ

第十八條 左ニ揚クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 滞納者及其同居家族ノ生活上ニ欠クヘカラサル衣服、寢具、家具、及厨具

第二 滞納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭

第三 實印

第四 祭祀ニ必要ナル物品及石碑、墓地

第五 滞納者ノ家ニ必要ナル系譜、日記、書付類

第六 滞納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣

第七 勳章及其他名譽ノ章票

第八 修學上必要ナル教科書、器具

第九 發明ニ係ル未定ノ物品、未タ發行セサル著譯書類

第十 滞納者同居家族ノ財産ニシテ一ヶ年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ一ヶ年前ニ記名シタル公債証書、株券、手形其他ノ証券

但所得稅ニ關シテハ此限ニアラズ

(細則) 第二條 處分法第十八條第一第二ニ掲グル衣服、寢具、家具、厨具、食料及薪炭ノ數量ハ普通法ノ例ニヨルヘシ

但其例ナキモノハ人口ヲ量リ生活上必要ト認ムル數量

ヲ殘シ置クヘシ

第十九條 左ニ掲クニ物件ハ他ニ處分費税金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルキハ滞納者ノ撰擇ニヨリ差押ヲササルモノトス

第一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其飼料

第二 職業ニ必要ナル器具及材料

第二十條 收入官吏ハ財産差押ヲナス爲滞納者ノ家屋倉庫及其他ノ場所ニ立入ルヲ得

滞納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト恩料スルキハ收入官吏ハ其場所ニ立入取調ヲ爲スヲ得  
收入官吏滞納者又ハ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ル

ハ日出ヨリ日没マテノ時間ニ限ルヘシ

第廿一條 收入官吏滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ル

キハ滞納者若クハ其同居家族、他人ノ家屋倉庫其他ノ場所へ立入ルキハ其所用者若クハ其同居家族ヲシテ立會ハシムヘシ

滞納者又ハ所用者及其同居家族共不在ナルキハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲシテ立會ハシムベシ

第廿二條 收入官吏ハ財産差押ヲナスニ當リ門戸倉庫房室及筐篋等ノ閉鎖シアルキハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クヲ得

第廿三條 收入官吏財産差押ヲナスキハ差押命令書ヲ携帯



シ滞納者若クハ立會人ノ求ニヨリ之ヲ示スヘシ

第廿四條 財産ヲ取押ヘタルキハ收入官吏其差押調書ヲ作  
リ立會人ト共ニ署名捺印シ其騰本ヲ立會人ニ交付スヘシ  
(細則) 第三條 財産差押ヘノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記載ス  
ヘシ

- 一 滞納者ノ住所氏名
- 二 動産ハ其名稱、種類、數量
- 三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、反別又ハ坪數及  
土地臺帳ニ記スル地價地租
- 四 船舶ハ其種類、積量、定繁場及所在ノ場所
- 五 登記簿ニ登記アル質入書入ノ金額利子及其返濟期

限、登記ノ年月日、債主ノ住所氏名又ハ質入書入ノ  
登記アラサルコト

六 貸與シタル不動産ニ付テハ借主ノ住所氏名其契約  
ノ要項返濟期限アレハ其期限及賃金

七 差押ノ事由及手續

第廿五條 通貨及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ  
封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ第十三條第二以下ノ物件  
ヲ差押ヘタルキハ其目錄ヲ副テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預  
ケ其預リ証書ヲ取ルヘシ

第廿六條 左ノ場合ニ於テハ滞納者又ハ其同居家族ヲシテ  
差押物件ノ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

第一 收入官吏ニ於テ必要ト認ムルキ

第二 運搬ニ困難ナルキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルキ

此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニヨリ差押物件タル  
ヲテ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘ  
シ

第廿七條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ヨリ

負債者ニ對シ差押ノ通知ヲナスヘシ

負債者前項ノ通知ヲ受ケタル后滞納者ニ對シ其義務ノ履  
行シタルキハ其履行ノ効ナキモノトス

(細則) 第四條 債主權差押ノ通知書ニハ左ノ諸件ヲ記載  
シ收入官吏署名捺印スヘシ

一 差押ヘタル債主權ノ種類員額

二 差押ヘノ事由

三 滞納者ニ對シ義務ノ履行ヲナスモ無効タルヘキ旨

四 此通知書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ其義  
務ヲ認ムルカ又ハ認メサル旨ヲ申出ツヘキ旨

第廿八條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルキハ收入官吏ハ所轄

登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ

第廿九條 質入書入トナシタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於

テハ收入官吏ハ差押物件、處分費、稅金額及賣却決行ノ期  
日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費稅金ヲ完納シタル

キハ其差押ヲ解クベシ

第三章 賣却

第三十條 財産差押ヘノ手續ヲ終リタルキハ收入官吏ハ其

翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲナスヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一 課税地ノ郡市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場

第二 物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滞納者ノ請求アルカ又ハ收入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲クル場所ノ外近傍人民群集地ニ揭示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ

公告スルコトアルベシ

(細則) 第五條 財産賣却ノ公告文ニハ左ノ諸件ヲ記載ス

ヘシ

- 一 滞納者ノ住所氏名
- 二 動産ハ其名稱、種類、數量
- 三 不動産ハ其位置、番號名稱、種願反別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價地租
- 四 般舶ハ其種類、積量定繫場及所在ノ場所
- 五 競賣若クハ入札ノ場所、日限
- 六 開札ノ場所日時
- 七 保証金ヲ徵スルキハ其金額

八 代金納付ノ期限

九 條件附ノ不動産ナレハ其條件

十 其他隨時主任官吏ニ於テ定メタル公賣手續上ノ要件

(細則) 第七條 賣却物件ノ買受人代金納付ノ期限内ニ代金ヲ完納セサルキハ其物件ヲ交付セズ更ニ賣却ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ保証金アルモノハ之ヲ還付セス其金額ハ處分費税金ニ補充スヘシ

第三十一條 差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニヨリ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニアラス

前項但書ノ物件及豫定総價格壹圓未滿ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却スルヲ得

(細則) 第六條 競賣ヲ以テ賣却ヲナスキハ收入官吏競賣人ヲ命シテ之ヲ取扱ハシメ自ラ之ヲ監督スヘシ  
入札ヲ以テ賣却ヲナスキハ收入官吏自カラ之レヲ取扱フヘシ

第三十二條 差押物件ヲ賣却セントスルキハ收入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條 賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏ニ於テ必要ナリト認ムルキハ他ノ地ニ

於テ之ヲ賣却スルヲ得

第三十四條 滞納者及賣却ヲナス地方ノ稅務ニ關スル官吏  
雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其賣却物件ヲ買受クルヲ  
得ズ

第三十五條 第十三條第一第二第三ノ物件ハ公告ノ日ヨリ  
十日以外第四第五第六ノ物件ハ廿日以外ニ於テ賣却ヲ爲  
スベシ

第三十六條 差押ヘ物件損敗シ易キモノ又ハ多額ノ保存費  
ヲ要スルモノ又ハ其價格ヲ著シク減少スルノ恐アルモノ  
ナルキハ前條ノ日限ニ拘ハラズ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十七條 收獲前ニ差押ヘタル生産物ハ其成熟ノ後之ヲ

賣却スヘシ

第三十八條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義  
務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メ  
サルキハ收入官吏ハ其差押ヘテ解キ更ニ他ノ物件ヲ差押  
フルヲ得

負債者其義務ヲ認メサル場合ニ於テ他ニ差押フヘキ物件  
ナキトキハ收入官吏ハ裁判所ニ出訴スルヲ得

第三十九條 不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲナスベ  
シ

第四十條 賣却ヲナスニ當リ買受望人ナキカ又ハ其買受價  
額カ豫定價額ニ達セサルキハ收入官吏ハ其豫定價額ノ幾

分ヲ減シテ更ニ豫定價額ヲ定メ再公賣ヲナスヘシ此場合ニ於テ尙ホ買受望人ナキカ又ハ其買受價額尙ホ豫定價額ニ達セサルキハ其豫定價額ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケ其代金ヲ處分費税金ニ充ツヘシ

第十三條但書ニヨリ差押ヘタル全部ノ物件ヲ政府ニ買上ケタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費税金ニ充テ尙ホ殘余アルキハ第四十三條ニヨリテ處分スベシ

(細則) 第九條 處分法第四十條ニヨリ賣却物件ヲ政府ニ買上ルキハ收入官吏該代金ヲ地方長官ニ請求シテ之ヲ支辨シ該物件ハ主管ノ官吏ニ引渡スヘシ

第四十一條 賣却ヲ終リタルキハ收入官吏ハ賣却調書ヲ製

シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其謄本ヲ滯納者ニ交付スヘシ質入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其謄本ヲ交付スヘシ  
買受人賣却調書ニ署名捺印スルコト能ハサルキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ハ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

(細則) 第八條 財産賣却調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 動産ハ其名稱、種類、數量
- 二 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、反別坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租

- 三 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所
- 四 公告及賣却ヲナシタル方法
- 五 競賣ヲナシ又ハ入札ヲ開キタル場所、日時
- 六 三番札マテ入札代價並其入札人ノ住所氏名
- 七 再公賣ヲ爲シタル時ハ其事由
- 八 保証金ヲ徴シタルト及其金額
- 九 落札代價及落札人ノ住所氏名
- 十 代金納付ノ日限

(細則) 第十六條 賣却物件ノ買受代金ハ買受人ニ於テ第六號様式ノ納付書ヲ添ヘ之レヲ收入官吏ニ納付スヘシ

第六號様式

用紙寸法適宜

	納	証
	一金何程	物件買受代金
	内	
	金何程	何々
	金何程	何々
	金何程	何々
書	付	
右納付候也		
明治何年何月何日		住所氏名印

第四十二條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナル時ハ收入官吏ハ落札達書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

第四十三條 差押へ物件ノ賣却代金及差押タル通貨ハ處分

費税金ニ充テ尙ホ残余アルモ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ  
 賣却シタル物件質入書入トナシタルモノナルモ其代金  
 ヨリ先ツ處分費税金ヲ扣除シ次ニ其負債金額ニ充ツル迄  
 ナ債主ニ交付シ尙ホ残余アレハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ  
 若滞納税金ノ納期限ヨリ一ヶ年前ニ質入書入トナシタル  
 モノナルモ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ツル迄ヲ債  
 主ニ交付シ次ニ處分費税金ヲ扣除シ尙ホ残余アレハ之ヲ  
 滞納者ニ還付スヘシ  
 前二項ノ場合ニ於テ滞納者ニ對シ裁判ノ執行アルモ其  
 残余金ハ該裁判所ヘ送付スヘシ  
 (細則) 第十二條 處分法第四十三條ニヨリ残余金ヲ滞納

者ニ還付シ又ハ負債金額ヲ債主ニ交付スルモ左ノ諸  
 件ヲ記載シタル計算書ヲ添付スヘシ

- 一 物件賣却代金
- 二 保証金ヲ還付セサルモ其金額
- 三 處分費各費目ノ金額及税金
- 四 債主ニ交付スヘキ金額及債主ノ氏名
- 五 滞納者ニ還付スヘキ金額

第四十四條 債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却調書ノ謄本及計  
 算書ヲ滞納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ  
 若シ五日以内ニ滞納者ヨリ異議ヲ申立ルモ其事由ヲ債  
 主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ



其金額受取方ヲ申出タルキ之ヲ交付スヘシ

第四章 送達

第四十五條 滯納處分ニ關シ滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之レヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキモノ遠隔ノ地ニアル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルヲ得

(細則) 第十三條 處分法第四十五條ニヨリ使丁ヲ以テ書類ヲ送達スルキハ第三號様式ノ送達書ヲ添付スヘシ

第三號様式

用紙寸法適宜

送達書	一冊
一(送達スヘキ書名)	受取人ノ署名捺印若能ハサルキハ其事由

送達書		一冊	
一(送達スヘキ書名)		受取人ノ署名捺印若能ハサルキハ其事由	
一(同)		送達シタル月日時	
右使丁ヲ以テ(何府何郡何村)		送達シタル場	

一(同)	一通	送達シタル月日時	送達シタル場
右使丁ヲ以テ(何府何郡何村)	同居人若クハ市町村長ヘ書類ヲ渡シタルキハ其事由		
ルモノナリ			
明治何年何月何日	右致送達候也		
何府何縣 何縣收稅部何出張所 收入官吏氏名印	使丁氏名印		

何番地何某へ送達セシムル者ナリ

明治何年何月何日

收税部  
出張所  
ノ印

何府  
縣  
收税部出張所

收入官吏氏名印

同居人若クハ市町村長へ書類ヲ渡シタルキハ其事由

右致送達候也

使丁氏名印

第四十六條 使丁ハ送達書額ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ

使丁ハ送達書類ヲ受取リタルモノヨリ領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルヲ能ハサルキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシム可シ

第四十七條 送達ヲナスニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキモノアラサルキハ送達書類ヲ其地ノ市町

村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲナスモ書類ヲ受取人ニ渡スヲ能ハサルキハ公示スヘシ

公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ揭示場ニ三日間揭示スルモノトス

前項ノ揭示ヲナシタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ

(細則) 第十四條 處分法第四十八條ニヨリ市町村長ニ於テ送達書類ノ公示ヲナシタルキハ直チニ其公示ノ日時

ヲ收入官吏ニ通知スヘシ

第四十九條 郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルコト能ハサルキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニヨリ處分スヘシ

第五章 罰則

第五十條 正當ノ理由ナクシテ第廿一條第一項ノ立會ニ應セサルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 滞納處分ニ對シ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ク

ハ故意ニ毀損シタルモノモ亦全シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタルモノハ各本則ニ一等ヲ減ス

附則

第五十二條 市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長之レヲ行フヘシ

第五十三條 此法律ハ明治廿三年一月一日ヨリ施行ス

但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ之ヲ施行セズ  
第五十四條 明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ抵觸スル條項ハ總テ廢止ス

太政官第七號

地租條例別紙ノ通制定シ明治六年(七)第二百七十二號布告  
地租改正條例及地租ニ關スル條規其他條例ニ抵觸スルモノ  
ハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室  
縣ハ當分從前ノ通タルヘシ

右奉勅旨布告候事

明治十七年三月十五日

太政大臣 三條實美

大藏卿 松方正義

地租條例

朕地租條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十一月二十九日

內閣總理大臣 公爵三條實美

大藏大臣 伯爵松方正義

法律第三十號

(細則) 大藏省令第十九號

地租條例施行細則左ノ通定ム

明治廿二年十二月廿九日 大藏大臣 伯爵松方正義

地租條例施行細則

(取扱) 大藏省訓令第七十六號

地租條例及地租條例施行取扱方左ノ通心得ヘシ

明治廿二年十二月廿九日 大藏大臣 伯爵松方正義

第一條 地租ハ地價百分ノ二ケ半ヲ以テ一定ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價格ヲ云フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニヨリ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類トナス

第一類 田畑市街宅地郡村宅地塩田鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第一類中又ハ第二類中各地目變換スル者ヲ地目變換ト云

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ニナスモノヲ開墾ト云フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩川欠押堀石沙入川成海成湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタル者ヲ荒地ト云フ

(細則) 第一條 條例第三條中第二類牧場ハ牧畜用ノ土地ニシテ一區域ヲナス土地トス

(取扱) 第一條 條例第三條ノ牧場ニシテ從來數地目ニ分割取調ヘタルモノハ訂正ノ手續ヲナサシムヘシ但搾乳營業ノ爲メ獸類ヲ參養スル場所ハ此限ニアラス

(取扱) 第九條 各地目中ニ包含セル現地名稱ハ土地臺帳地目欄内本地目ノ欄ニ記入スヘシ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地

租ヲ免ズ

(細則) 第二條 條例第四條中免租ノ制限左ノ如シ

公立學校地ハ校舍建設アル一構内ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ公立農學校ニ於テ實驗用ニ供スル五丁步以内ノ土地ニシテ借地ニアラサルモノニ限ル

鄉村社地ハ鄉村社ノ現境内ニシテ該社有ノ者ニ限ル  
禁伐林ハ明治十七年大政官布達第三號ニヨリ樹木斫伐地停止ノ土

(參照) 十七年大政官第二號布達

民有森林ノ内水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防キ類雪ヲ支スルノ類國土保安ニ關係アルケ所ニシテ漫リニ

其樹木ヲ斫伐シ塘物土石ヲ掘取セハ他ニ障害ヲ及ホス  
ト不尠ニ付是等ノケ所ハ害地ノ景狀ニヨリ其事業ヲ停  
止セシムルヲアルベシ

(細則) 鐵道用地ハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例

第八條ノ土地

(參照) 廿年勅令第十二號

第八條 左ニ記載スルモノヲ以テ鐵道用地トス

第一 線路ニ當ル敷地但其幅員ハ築堤切取架橋等工  
事ノ必要ニヨリテ定ムルモノトス

第二 停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫建築用ニ供  
スル土地

第三 前項ノ構内ニ常住ヲ要スル驛長車長及機關方  
等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地

第四 鐵道布設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修  
繕スル器械場及同上ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ  
建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間トナシ方一間ヲ  
以テ步トシ三十步ヲ畝トシ十畝ヲ反トナシ十反ヲ町トス  
但市街宅地ハ方一間ヲ以テ坪トナシ坪ノ十分ノ一ヲ合ト  
ナシ合ノ十分ノ一ヲ勺トナス

(細則) 第三條 條例第五條ノ丈量ヲナスニ當リ尺度ノ用  
法ハ左ノ如シ

一間未滿ノ尺度ハ六尺ノ十分ノ一ヲ分トナシ分ノ十分ノ一ヲ厘トナシ丈量ノ際端尺三寸ヨリ五尺七寸マデ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨テ五厘ニ止メ其積算上ニ於テ一步未滿ヲ切捨ツヘシ但一筆ノ土地ニシテ一步未滿アルモノハ勺位迄ヲ用ユ

第六條 市街宅地ノ丈量ハ厘未滿ヲ切捨厘位ニ止メ其積算上ニ於テ一勺未滿ヲ切捨テ勺位ニ止ム

第六條 地價ヲ定メ地價ヲ修正スルキハ地盤ヲ丈量ス  
(細則) 第四條 條例第六條ノ丈量ハ所有主之レヲナシ地方廳其當否ヲ檢査ス但本條ノ場合ニ於テ一筆ノ土地ヲ分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併スルキハ其殘地若ク

ハ全部ヲ丈量シ其二類地ニ係ルモノハ適宜之レヲ省略スルヲ得

(細則) 第五條 地盤ヲ丈量スルニハ三斜法ヲ用ユ但山林原野等ハ其地形ニヨリ適宜ノ方法ヲ以テ丈量スルヲ得

(細則) 第六條 田畑ハ畦畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ丈量ス

(細則) 第七條 田畑ノ畦畔ニシテ其所有主自由ニ變換スヘキモノハ之レヲ本地ニ量入ス其常ニ變換セサルモノハ之ヲ除却シ其步數ヲ外書トス  
畑宅地ノ一筆地ニノミ通スル道路及一筆以内ニシテ其



所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總テ本地ニ量入ス  
 崖高ノ地其崖脚中ノ鉄入ニ必要ナル土地ハ之レヲ本地  
 ニ量入シ其崖脚ニシテ相當ノ收利アルモノハ之レヲ本  
 地ニ量入シ若クハ別ニ一筆地トス  
 田畑宅地内ニ別地目ノ瑣少ナルモノ孕在スルキハ之レ  
 ナ本地ニ量入シ内書トス  
 (取扱) 第三條 施行細則第四條ノ檢査ヲナスニ當リ官ノ  
 地圖ト實地トヲ照査シ其齟齬ナキヲ視認タル上着手ス  
 ヘシ但丈量檢査ニ要スル器械ハ收稅官吏携帶スヘシ  
 (取扱) 第七條 地盤ヲ丈量シタルモノハ其願屆書ニ丈量  
 野取圖ヲ添付セシムヘシ

第七條 地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變  
 換シタルキニアラサレハ之ヲ修正セズ  
 第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルキハ前以テ其旨ヲ布告  
 スヘシ  
 第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮査シ其所得ヲ審查シ尙  
 土地ノ情狀ニ應シコレヲ定ム  
 (細則) 第八條 地價ヲ定メ又ハ修正スヘキ土地ハ所有主  
 ニ於テ近傍類地ト地力ヲ比較シ又實地ノ情況ニヨリ相  
 當ノ地位等級ヲ調ヘ其願屆書ニ記入スルモノトス  
 前項ノ場合ニ在テ所有主多數ナルキハ其所有主中ヨリ  
 二名以上ノ總代人ヲ撰ミ調理セシムルヲ得

前項ノ地價ハ地方廳ニ於テ檢査ノ上之レヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シ

タルキハ地方廳ニ届出ツヘシ（本項違犯者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス第廿六條）

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨ

リ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收ス

但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニアラス

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ

据ヘ置キ六年目ニ至リコレヲ修正ス

（細則）第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ府縣知事ニ於

テ豫メ管内ヲ五區域トナシ毎年其一區域ヲ檢査シ五ヶ

年ヲ以テ全管ヲ檢了スヘシ但地價ハ檢査ノ當年於テ修

正ス

（細則）第十五條 條例中地方廳へ差出スヘキ願届書式ハ

府縣知事之ヲ定ム

（取扱）第四條 條例第十條第二項ノ土地ハ其届書ヲ檢査

區域毎ニ編綴シ置キ其地價修正シタルキ市町村長限リ

變換ノ年度ヲ區分シ六ヶ年目ヨリ逐次賦租ス可キ地目

變換地臺帳ヲ調製シ置クヘシ

（取扱）第五條 條例第十條第三項ノ變換及條例第十六條

第二項ノ開墾届出アルキハ市町村長限各其臺帳ヲ調製

シ地價修正ノ年限ヲ記入シ置クヘシ

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルキハ地方廳ノ許

可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニヨリ之レヲ定ム

(本條違犯者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ且其原地目ニヨリ地價ヲ定メ其地租ヲ徵收ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ズ)

(細則)第十五條 條例中地方廳へ差出スヘキ願屆書式ハ府縣知事之レヲ定ム

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス

但質入ノ土地ハ其質取主ニ於テ之ヲ納メシム

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林、トナスルハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之レヲ免シ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、及公衆

ノ用ニ供スル道路トナスルハ其地租ハ工事着手月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ズ

(細則)第十條 條例第十三條第一項末段ノ土地ハ工事ニ着手セシ一筆地限り其月ヨリ免租ス

(取扱)第二條 條例第十三條ノ禁伐林ニシテ既ニ其命令アルモノハ條例施行ノ月ヨリ其地租ヲ免除スヘシ

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハコノ限ニ非ラス

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルルキハ地方廳ニ届出ツベシ

前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年日ニ其成効ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功スル能ハサル開墾ヲ爲サントスルキハ地方廳ニ願出歛下年期ノ許可ヲ受クヘシ歛下年期ハ三十年以内トス

但年期中ハ原地價ニヨリ地租ヲ徵收ス

官有地ヲ開拓シテ民有地ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル處ノ地價ヲ定メ尙十年以内ノ歛下年期ヲ許可ス

但年期中ハ現定地價ニヨリ地租ヲ徵收ス

官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區劃若クハ形狀ヲ變換スル爲又ハ地目ヲ變換スル爲開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三條ニ準シ三十年以内ノ地價据ヘ置年期ヲ許可スルコトアルベシ

(細則) 第十一條 條例第十六條第二項ノ土地ハ同條第一項開墾着手ノ年月日ヲ記載スヘシ

(細則) 第十二條 條例第十六條第三項第四項第五項第六項及第二十條年期ノ長短ハ其事業ノ難易被害ノ深淺ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

(細則) 第十五條 條例中地方廳ヘ差出スヘキ願届書式ハ府縣知事之ヲ定ム

(取扱) 第五條 條例第十條第二項ノ變換及條例第十六條

第二項ノ開墾届出アルキハ市町村限各其臺帳ヲ調製シ  
地價修正ノ年限ヲ記載シ置クヘシ

(取扱)第六條 條例第十六條第三項十五年以上ノ年期及  
第六項ノ第十八條第二十條第二項ノ土地ニ對シ年期ヲ  
附與スルモノト視認スルキハ其狀況ヲ具シ當省へ稟議  
スヘシ

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事  
業成功ニ至ラサル條ハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス  
(細則)第十三條 條例第十八條第廿一條第廿三條第廿四  
條年短ノ長短ハ實地ノ情況ニヨリ府縣知事之ヲ定ム

(取扱)第六條 條例第十六條第二項十五年以下ノ年期及

第六項第十八條第廿條第二項ノ土地ニ對シ年期ヲ附與  
スヘキモノト視認スルトキハ其情況ヲ具シ當省へ稟議  
スヘシ

第十九條 鈿下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノキ  
其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免稅年期ヲ定  
メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス  
海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ  
ヨリ前項ニ準據スルコトアルベシ

(細則)第十二條 條例第十六條第三項第四項第五項第六  
項及第二十條年期ノ長短ハ其事業ノ難易被害ノ深淺ニ

因リ府縣知事之レヲ定ム

(取扱) 第六條 條例第十六條第三項十五年以上ノ年期及第六項第十八條第二十條第二項ノ土地ニ對シ年期ヲ附與スヘキモノト視認ムルキハ其情況ヲ具シ當省ヘ稟議スヘシ

第廿一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ抵價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

(細則) 第十三條 條例第十八條第廿一條第廿三條第廿四條年期ノ長短ハ實地ノ狀況ニヨリテ府縣知事之ヲ定ム

第廿二條 抵價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及

荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニヨリ地價ヲ定ム

第廿三條 免租年期明ニ至リ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第廿一條第廿二條ニヨリ處分ス

(細則) 第十三條 條例第十八條第廿一條第廿三條第廿四條年期ノ長短ハ實地ノ狀況ニヨリ府縣知事之レヲ定ム

第廿四條 川成、海成、湖水成等ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖、ニ歸スルモノトス

(細則) 第十三條 條例第十八條第廿一條第廿三條第廿四

條年期ノ長短ハ實地ノ情況ニヨリ府縣知事之レヲ定ム

(取扱) 第八條 條例第廿四條ノ荒地ニシテ川海湖ニ歸シ

タル土地アルキハ地種組換ノ手續ヲナスヘシ

第廿五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脱スルモノハ四圓以上四

拾圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニヨリ地價ヲ定メ欺隱年間

ノ地租ヲ追徴ス

但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルヲ得ズ

第廿六條 第十一條ニ違犯スルモノハ三圓以上三拾圓以下

ノ罰金ニ處シ且原地目ニヨリ地價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス

但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ホルヲ得ズ

(細則) 第十四條 條例第廿六條第廿七條ノ追徴租額ハ犯

罪發覺ノ日即其月分ヨリ計算ス

第廿七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スルモノハ

壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ

ナサルモノハ理地目ニヨリ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追

徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ホルヲ得ズ

(細則) 第十四條 條例第廿六條第廿七條ノ追徴租額ハ犯

罪發覺ノ日即其月分ヨリ計算ス

第廿八條 第廿五條以下違犯借地人小作人ト所爲ニ係リ所

有者其情ヲ知ラサルキハ借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有

主ヨリ追徴ス

第廿九條 第廿五條第廿六條第廿七條第廿八條ノ刑ニ當ル  
モノ自首スルキハ其罰金科料ヲ免ス但追徴スヘキ地租ハ  
尙ホ之レヲ納メシム

明治二十三年四月十九日印刷  
全 年 辛 丑 月 廿 四 日 出 版

定價 金貳拾五錢

08

編纂者

鈴木壽三郎

岐阜縣可兒郡久々利村  
二百八十四番戶

發行者兼  
印刷者

黒宮友二郎

愛知縣名古屋市本町  
四十四番戶

大賣捌所

三

横山光治郎

岐阜縣可兒郡兼山町常盤町

全

愛知縣名古屋市本町四丁目

愛知印刷會社



第廿九條 第廿五條第廿六條第廿七條第廿八條ノ刑ニ當ル  
モノ自首スルキハ其罰金科料ヲ免ス但追徴スヘキ地租ハ  
尙ホ之レヲ納メシム

明治二十三年四月十九日印刷  
全 年 主 全 月 廿 四 日 出 版

定價 金貳拾五錢

08

編纂者

鈴木壽三郎

岐阜縣可兒郡久々利村  
二百八十四番戶

發行者兼  
印刷者

黒宮友二郎  
愛知縣名古屋市本町  
四十四番戶

大賣捌所

③

岐阜縣可兒郡兼山町常盤町  
横山光治郎

全

愛知縣名古屋市本町四丁目  
愛知印刷會社

EX 982

